

新しいアレルギー検査ドロップスクリーン A-I

自然と人間の活動の問題を誰もが真剣に考えざるを得ない気象変動や災害が頻発するようになってきました。またこの夏、昆虫がかなり少なくなったように思いますが、気のせいでしょうか。多くなったのは、ネオニコチノイド系殺虫剤やラウンドアップ除草剤の被害です。大抵の方は何による症状かわからずに受診されますが、診察の結果は、これらの薬剤によるものが多いのです。その他花粉症と合併していることもよくみられます。9月中頃より例年より少し早く、スギの雌花の花粉症が始まりました。末頃よりカモガヤの花粉症も出てきました。黄砂やPM2.5の被害もこれから強くなると思います。咳や鼻汁がたいしたこと無くても、コロナと疑われるのが嫌だと、対症療法を求める方が増えてきました。できるだけ副反応の少なく相性のよい薬剤を、ORTで調べて処方致しますが、アレルギーを除去できない場合でも、自分にぴったりの「薬」は、超希釈尿療法です。(バックナンバーで何度か作り方をお知らせしています。) 取り組んでみたい方は、作り方のプリントを差し上げます。わからないことがあればご質問ください。

食物アレルギーの対策は様々な程度の除去と経口免疫療法です。治療の基本は、何といても自分のアレルギーを出来るだけ認識することです。

前回お伝えした1滴の血液で即時型の抗体を30~40分で検査できるドロップスクリーンA-Iは次のものを調べられます。ダニ、ハウスダスト、猫、犬、ゴキブリ、ガ、ラテックス、花粉はスギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ、カモガヤ、オオアワガエリ、ブタクサ、ヨモギです。カビはアルテルナリア、アスペルギルス、カンジダです。食品はつぎのものが調べられます。卵白、オボムコイド、牛乳、小麦、ごま、そば、ピーナツ、米、大豆、トマト、キウイ、モモ、バナナ、リンゴ、鶏肉、牛肉、豚肉、マグロ、サケ、サバ、エビ、カニです。今までの検査方法と比べてもほぼ同じような結果が出ています。しかしこれ以外のアレルギーを調べたいときは、今までと同じで、採血しなければなりません。例えば、タラ、カレイ、イカ、カキ、ホタテ、アニサキス、ジャガイモ、サツマイモ、コーン、クルミ、アーモンド、カシューナッツ、ココナッツ、カカオ、マラセチア、ペニシリウム、羽毛等重要なアレルギーがあります。これらは、一度には13項目しか保険では認められていませんが必要な時はぜひ調べて欲しいアレルギーです。

ドロップスクリーンA-Iで調べ始めて、ORT検査と同時にわかることにより、どのようなアレルギーであり、どのように治療していけばよいのかを、家族構成、年齢、給食の有無、本人の希望などを考慮して決めていくことが、より早く、より正確にできるようになりました。まだ一度も検査したことの無い方にはスクリーニングとしての検査をお勧めします。